



青少年赤十字だより 第31号

JRCとやま

引き継がれる活動



富山県青少年赤十字指導者協議会

会長 稲田 壮一
(射水市立射北中学校長)

令和3年度も新型コロナウイルスに振り回された1年となりました。

今年度の富山県青少年赤十字指導者協議会の活動は、5月の総会は開催できなかったものの、リーダーシップトレーニングセンターは高校生のためのWebでの開催、1月の研究会も急遽Webでの開催となりました。

また、これまで、JRCの研究推進のため、2カ年にわたる「活動推進校」を2校お願いしてきましたが、今年度から「活動実践校」と名称を変え、単年度で多くの学校にお願いすることとしました。そのことで、より多くの学校の実践例やアイデアが広まるのではないかと考えたからです。本年度は9校にお願いし、1月の研究会で発

表又は紙上発表していただきました。そこでは、小中高の素晴らしい取組が紹介され、内容のある会になりました。引き受けてくださった学校関係者に感謝申し上げます。

JRCのメインの活動は「リーダーシップ・トレーニング・センター」です。残念ながら昨年引き続き中止となりました。この「リーダーシップ・トレーニング・センター」は小中高の児童生徒が宿泊をし、JRCの活動について実践的に学ぶものです。先生方にとっても他の学校種の先生方と交流できる貴重な機会になっています。

一昨年、本校から参加した生徒がいきました。参加した1ヶ月後に生徒会長になったその生徒は、トレーニングセ

ンターで学んだことを生かし、「V・S(ボランティアサービス)週間」というものを新しく提案しました。人のためにできることを考え、自分から実践しようと全校生徒に呼びかけるとともに、感謝したい人へのメッセージを書いてもらい、掲示しました。その活動は昨年、今年と少しずつ形を変えながら引き継がれ、新しい伝統となりつつあります。

いい活動は誰かに響きます。その響いた人がまた行動を起こす。そして、誰かに影響を与える。こういうつながりこそ大切にしていかなければならないと思います。

いろいろなことが縮小、削減されています。教員の働き方改革が必要な今日、それはとても大事なことです。しかし、継続すべきものも当然あります。すぐには成果が表れなくても、よいものは継続していくうちに、あるときに花が咲きます。

青少年赤十字は今年創設100周年を迎えます。これまで活動を支えてくださいました関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、活動の普及・推進に一層ご協力くださいますようお願いいたします。

青少年赤十字活動研究会

1月21日(金)、急遽Web開催となりましたが、「令和3年度青少年赤十字活動研究会」を県教育委員会と共催で開催し、県内の小・中・高等学校等教員37名が参加しました。ここに、当日の講演概要をお伝えします。

〈第一部・講演〉

「オミクロンが登場しても

感染対策の基本は同じです」

日本赤十字豊田看護大学 教授 下間 正隆先生

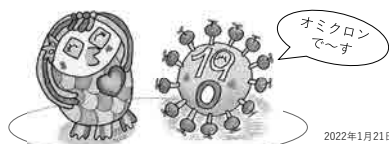
日本赤十字豊田看護大学の下間正隆と申します。私は約2年前からこの大学でコロナの感染対策をやっていますが、大学でも今週あたりから「妹が感染した」「父が感染した」「弟が感染した」ということが出てきて、防ぎようのない家庭内感染や濃厚接触者になった学生が毎日1人2人と現れてきました。

富山県のJRCに加盟している学校の先生方も、大変混乱し毎日が大変な状況なのだろうと思っています。

本日のスライドで皆さんの悩みを解決できると思います。自作のスライドにより基本的な感染対策について説明したいと思います。今、オミクロン株が登場してきたということか

※ 令和3年度 富山県
青少年赤十字活動研究会

オミクロンが登場しても
感染対策の基本は同じです



2022年1月21日(金)
★ 日本赤十字豊田看護大学
下間正隆
(Infection Control Doctor)

ら、感染対策の基本、ワクチンについて、感染しないための構造、その他のポイントについてご紹介したいと思います。

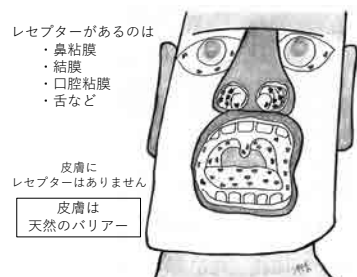
● コロナはどこから感染するのか

コロナは顔の5つの粘膜から感染します。目の粘膜2つ、鼻の粘膜2つ、口の粘膜、です。この5つの粘膜からしか感染しません。体にはもう1か所、粘膜が露出しているところがあります。それは肛門です。しかし、みんなパンツをはいてズボンをはいていますので、こんなところからコロナは感染しません。

顔の5つの粘膜、例えば鼻に入って感染したコロナは、そこで炎症を生じさせ臭覚神経が障害されて臭覚障害がおこる。舌の後ろの方には味蕾細胞がある。味を感じるこの細胞のところで感染し炎症がおこると味覚が障害される。飲み込んだコロナが胃酸にやられずに胃を通して小腸まで到達すると、小腸の粘膜のレセプターから入って感染し、腸炎がおこって下痢がおきる。コロナに感染すると1〜2割の人が下痢をします。

飛沫感染、接触感染、そしてマイクロ飛沫です。ほぼ空気感染、この3つの「飛沫・接触・空気」の経路でコロナは感染します。粘膜面のレセプターにコロナが引っついて、体に入っていきます。

目・鼻・口、この粘膜をさわる前に、手をきれいにすることが大事です。手の平をこすること



も大事ですが、鼻の中に指を入れる、目をこする、口に指を入れる、こうした行動を考えれば、手の平よりも指先を意識することが大事です。

● 手指消毒の方法は

まず手の平にアルコール消毒液のプールを作って、そこで指先をしっかりと消毒することが大事です。いつ、手を消毒するのか。そう、粘膜をさわる前に手をきれいにしましょうと伝えなければなりません。その消毒の仕方は、指先を一番大事にすることですね。大事なところは指先と親指です。みかんをむくのも口に運ぶのも指先と親指、感染予防をするためには、ミカンにオミクロンがつかないように、指先と親指を意識してきれいにしましょう。

● 次はワクチン

ワクチンのおかげで年末まで感染が収まっていた。

ワクチンのある世界とワクチンのない世界。ワクチンがまだ日本に導入される前は、大勢が発症し、どこも発症者ばかりでした。しかしワクチンのない世界は過ぎ去り、昨年夏ごろから大勢がワクチンを打つことにより発症者が減りました。ワクチンを打って、発症者が減ると、発症者がどこかにいても自分と距離を取ることができます。これが発症者が減る理由です。全国でたくさんの方がワクチンを打ったので、デルタ株による感染が



収まっていきました。しかし、ワクチンの効果もかなり落ちてきて、オミクロンも登場してきました。世界をもう一度元に戻すためには、もう1回ワクチンを打って抗体価を上げましょう、そして、そもそもの感染対策をしっかり取りましようということだと思っています。

ワクチンは発症や重症化の予防が期待されているというふうに言われています。では、ワクチンを打つてもなぜ感染するのでしょうか。ワクチンを打つと体の中で抗体ができ、それがコロナから守ってくれます。その抗体にはIgA、IgGなど5種類あります。粘膜表面で戦うのは分泌型のIgA抗体、血液中で戦うのがIgG抗体です。つまり感染予防はIgA、その後の発症・重症化予防はIgGがすることです。感染の成立を防ぐためにはIgA抗体が必要だということです。

しかし、ファイザー社やモデルナ社のメッセージジャーRNAワクチンは、打ってもIgA抗体はできず、IgG抗体がたくさんできる。コロナが粘膜から体の中、あるいは血中に入っているんな臓器で炎症をおこす、こうしたことに對してはIgG抗体が血液中でコロナと戦い、発症、重症化を予防するということです。

なぜワクチンを3回打つのか。血中のIgG抗体は時間とともに減っていきます。藤田医科大学の去年8月のデータでは、接種3か



月後の抗体価は2回目接種後に比べて約4分の1に減少します。各年代、今はもつと下がっていると思います。ワクチンは打つたびに免疫細胞が記憶しています。T細胞。Tは胸腺のこと。B細胞。Bは骨髄のこと。ワクチンを打つとTやB細胞が記憶していて、たくさんできて抗体をどんどん産生する。いったん抗体価が下がったとしても記憶されているので、もう1回ワクチンを打てば今まで以上に速いスピードで抗体量が維持される、そういう仕組みです。やはり3回目が必要になるのだと思います。

●ワクチンを打っても、引き続き感染対策が必要

ワクチンだけではコロナを防げません。コロナが顔の粘膜に引付かないようにするために、マスク・手指衛生・換気・黙食が大切です。マスクにはサージカルマスクとウレタンでできた見せかけのマスクがあります。今必要なのは3層の不織布で織られたサージカルマスク、これをしっかりとつけることが大事です。電車内でのマスクを外しての会話、プールでのおしゃべり、狭いロッカールームや休憩室でのおしゃべりも危険ですね。中学高校では部室でついつい話合ってしまうことがあるかもしれません。黙って着替えることをしっかりと伝えることも大事だと思います。とにかく、マスクをはずす時が危険です。では、マスクをいつつけるか。それは人との距離が取れない時です。しっかりと認識して、オンオフを心得たマスク使用が大事だと思います。



次は手をきれいにすること。これも大事です。どういう時に手をきれいにするのか。それは顔の粘膜を触る直前です。顔を触る直前に一旦立ち止まり、手をきれいにすることが大事です。換気の悪い場所はハイリスクです。室内をよく換気してコロナを吹き飛ばしましょう。富山県支部では、各小中学校に大きいサーキュレーターを提供する事業をやっておられるということですが、まさに、こうしたものがこれからどんどん必要になっってくると思います。黙って食べることも大切です。

●どこをどのように消毒するのか

皆がよく触るところ、教室のドア、電灯のスイッチ、階段の手すり、トイレのドア、机、いすなどですね。

消毒する時は奥から手前にS字に一方通行で拭くことが大切です。往復ワイパー式で拭いてしまいがちですが、これでは汚れが右往左往するだけです。あとテーブルの裏面はつかむ部分が汚いので、最後に指の届く範囲の裏面を拭き取りましょう。

クロスにアルコールを噴霧して、あるいはテーブルに噴霧して拭くことがあります。これは消毒が不均一になる原因です。十分な枚数のクロスに薬液に浸しておく。消



毒効果を得るには、消毒液が乾燥するまでの時間がある程度必要です。そして、一定の面積、例えば2m四方を拭いたら、そのクロスは使わずに新しいクロスで拭く。病院での清掃では常にこれを伝えていきます。消毒液に十分に浸したきれいなクロスをたくさん準備しておきます。クロスを消毒液に2度漬けて使わないということが大事です。

●本日のまとめ

①コロナは顔の粘膜からしか感染しません。皮膚からは感染しません。②ワクチンだけでは感染を防げません。③指先を意識して手をきれいにする。④人との距離が取れない時はマスクをする。⑤室内をよく換気する。

それぞれの人の心がけが大切であると思います。小学校、中学校、高校におかれても、児童、生徒、教員、保護者などすべての人が感染対策の知識や認識を共有することが大切です。共通した認識で戦わないと、誰かがちょっと変わった行動をとると、それがきっかけとなって感染対策が破綻する可能性があります。

日本赤十字豊田看護大学のホームページに、コロナ対策に関するスライドをたくさんアップしています。お時間があれば見ていただければ幸いです。以上、本日はありがとうございます。

児童・生徒と教員、そして保護者など、すべての人が感染対策の知識や認識を共有することが大切です



〈第2部：活動実践発表〉

「学校教育とJRC」思いやりの

持続可能性（気づき・考え・実行する）

平成9年度から続く「活動推進校研究報告」が令和3年度から改定され、指定2校が2年間、JRCの活動研究をする形態から、単年度に9、10校が、学校行事や活動にJRCの実践・態度目標を絡めた実践事例を集める「活動実践校実践報告集」となりました。

初年度、実践校として9校が参加し、うち4校が活動実践発表を行いました。立山町立釜ヶ淵小学校、射水市立片口小学校、黒部市立清明中学校、高岡市立南星中学校がWeb発表し、西部教育事務所の安養先生から講評をいただきました。

その他の実践校の富山市立藤ノ木小学校、高岡市立国吉義務教育学校、富山市立楡原中学校、射水市立小杉南中学校、県立高岡西高等学校の実践報告は、この日の発表校と合わせ、9校の実践報告集として冊子を発行し、加盟校はもちろん、未加盟校にも配布し、青少年赤十字活動ガイドとして活用されることを期待しています。

令和4年度には、小学校では下新川地区、富山市地区、南砺市・小矢部市・砺波市地区、高岡市地区から各1校、中学校は中新川地区、富山市地区、南砺市地区、高岡市地区から各1校、及び他校種から実践活動に参加していただく予定です。



指導主事対象青少年

赤十字研究会に参加して

西部教育事務所

主任指導主事 安養 貢



今年度の研究会は、時期が9月に変更され、オンラインではありましたが、全国から70人を超える参加者がありました。

講演や校種別のグループ討議等、様々な学びの場を通して、特に印象に残っているのは、青少年赤十字の目標である「気づき 考え 実行する」ことが「生きる力を育む」という点で、現行の学習指導要領が求めている点と一致しているということです。学校教育と青少年赤十字が目指しているものは同じ方向にあると感じました。

事例発表では、SDGsや防災教育等の活動の中で、児童生徒が生き生きと活動に取り組む様子が紹介されました。どの活動も難しいものではなく、どこの学校現場でも日頃から行われている活動を、JRCにある多くの資料、教材、体験プログラムをタイムリーに活用することで、より効率よく、効果的な活動につながっていくことが報告されていました。「JRCのために何かをするのではなく、JRCと一緒に学校教育を進めればよいこと」を実感しました。

今回の貴重な体験から学んだことを今後の研修会等で伝えていきたいと思えます。終わりになりましたが、事務局の丁寧なサポートに心より感謝申し上げます。

令和3年度青少年赤十字 リーダーシップ・ トレーニング・センター 指導者養成講習会

令和3年6月5日(土)、「令和3年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会」がWeb開催されました。富山県からは、トレセン指導経験豊富な3人が参加しました。



富山市立熊野小学校
教諭 中井 幸

本講習会に参加して、私は、青少年赤十字の精神や目指す子供像を教育現場においても育成することができると思いました。例えば、子供たちは、朝の会で一日の予定や準備物を思い浮かべることで、「先見の力」を身に付けたり、まわりの様子をじっくり見て、気付いたことを実践することで「気づき・考え・実行する力」を身に付けたりすることが出来ます。そのような力が身に付くように、日々の教育実践の中でも、工夫していきたいと考えています。

また、JRCと道徳のワークショップでは、冊子「まもるいのち ひろめるぼうさい」を生かした道徳科の学習についての話を聞きました。私は、昨年度6年生の総合的な学習の時間に、本冊子を使って防災の学習をしました。冊子の中には災害の写真や映像があり、それを見た子供たちは命の大切さについて考えるようになり、道徳的価値が高まったと感じました。冊子の他にも、コロナ

ウイルスに関する資料等、日本赤十字社が作られた資料には教育活動のあらゆる場面で使えるような資料があると思いました。今後、災害の学習に限らず、様々な教科で活用していきたいと思いました。今回学んだことを生かして、普段の生活の中でも「気づき・考え・実行する」子供を育てられるよう励んでいきたいです。



射水市立東明小学校
教諭 磯部 光志

講習会はオンラインで全国の方の話を伺うことが出来ました。実際の活動があまりできず残念でしたが、日常での活動に加えることのできるひと工夫や、ワークショップの仕方など実践に生かせる学びも得られたので有意義なものになりました。今回の養成講習会に参加させていただいて、青少年赤十字トレセンで行っている活動は、日常における学校での教育活動で行われているもの、今後の活動に生かせるものが数多くあると感じました。特に小学校高学年に活用したいと感じたのは「先見」と呼ばれる時間です。その日のスケジュールや、自分がどう行動したらいいのかを一日の始まりに考えることによって、「気づき、考え、実行する」という赤十字活動における行動指針につながっていることが分かりました。そして、自発的に動くだけでなく、周りを見て判断する力も付けられると感じました。

トレセンの活動自身は座学が多く、リーダーを育てる環境ということよりも防災知識を学ぶ場という印象が強かったのですが、今回の講習会から子供を主体的に育てるための仕組みがいくつもあることが分かりました。今回の学びを活用してよ

りよい教育活動を行えるよう取り組んでいきたいと思っています。



富山市立山室中学校
教諭 出村 秀司

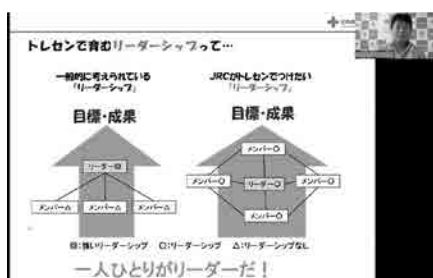
今回コロナ禍の中、リモートでの開催ではありましたが、青少年赤十字トレセン指導者養成講習会に参加させていただき、多くの参加者とりモートで交流を深める中、ある思いが蘇ってきました。

それは、平成19年の能登半島地震のときです。私は野次馬根性で寸断している公道を縫ってバイクで現地に向きました。そこで私が目の当たりにしたのは、たくさんの方の災害ボランティアの方々が身を粉にして熱心に活動している姿でした。

浅はかな行動を自省しながら、ボランティア活動に協力していた私を更に驚かせたのは、被害に遭った方々が困っている生活の真只中に私たちに厚意で「おにぎり」をつくってくれたことでした。

私はそのとき日本人の「思いやりの心」を実感すると同時に、自分自身がその心をつないでいるか？という自責の念も抱きました。

思い出を振り返りながら、青少年赤十字の活動に微力ながらも協力し、次世代を担う子供たちにV・Sの心を伝えていきたいと改めて考えることができた一日でした。



令和3年度青少年赤十字 メンバー参加プログラム

令和3年度青少年赤十字 スタディー・プログラムに参加して

令和3年12月25日(土)・26日(日)に令和3年度青少年赤十字スタディー・プログラムがWeb開催され、氷見高校と射北中学校のメンバーが参加しました。

立場と見方

射水市立射北中学校2年 建部 夏希

今回のスタディー・プログラムを通して、私が一番印象に残ったのは、「私のせいじゃない」という本のお話です。

本の内容は、一人の男の子が泣いていて、その子の後ろには14人のクラスメイトが立っています。ページをめくるたびにクラスメイト一人一人の意見が書かれていくのです。読んでみてはじめて感じたのは、クラスメイト全員が冷たいように感じました。どこか責任逃れをしていて、男の子に誰一人寄り添っていなかったからです。その後、本の解説を聞いて、全員が「他人事」だと思っていたことがや本の最後に載っている写真を見せられて、世界の状況について教えてもらいまし



た。

今まで漠然と難民や働かされている子供がいることは知っていましたが、写真は見たことがありませんでした。飢餓で骨が浮き出た子供の写真もあり、日本は世界の中でも恵まれた状況にある数少ない国の一つだと思い知らされました。今の当たり前が世界の日常ではないからこそ、まずは知ることが最も重要なことだと思います。また、本の内容にもあった、他人事のように考えるのではなく、相手の立場に立つて、想像することも大切だと思いました。



これからは私も第三者ではなく、相手に寄り添うことができる、強く、優しい人になりたいです。相手の辛さや苦しさをすべて想像したり、考えたりすることは難しいことだけど、思いやる心が、きつと相互理解に繋がると強く信じています。

令和3年度富山県青少年赤十字 高等学校トレーニング・センター

8月3日(火)、高校生を対象にWebトレセンを開催しました。氷見高校、高岡西高校、富山いずみ高校、高岡向陵高校からメンバー28人と指導者5人が参加しました。

Webで高校トレセン

ワークシート活用で円滑な議論

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」

を教材に「人道の敵」「感染予防」についての講義のあと、4つのホームルームに分かれての討議を行いました。

講義を受けながら記入したワークシートをもとに、メンバー・指導者は活発に意見を交わしました。参加メンバーからは

「自分の中には第1の敵、利己心があると気づき、自分の行動で何が起るかを想像して、広い視野を持ち、人のことを思いやることのできる人間になりたい」といった声がありました。初めてのWebトレセンでしたが、指導者の先生からも良い反応が多く得られました。

オンラインと参集のハイブリッドトレセンが実施できるよう準備していく予定です。



令和4年度 トレセン開催の お知らせ

令和4年度は8月3日(水)から8月5日(金)の間に、富山県砺波青少年自然の家やWebで開催する予定です。開催案内は、6月中に加盟校にお知らせします。たくさんの学校から児童・生徒の参加並びに先生方のご協力をお待ちしています。

令和4年度で青少年赤十字は創設100周年を迎えます！

日本の青少年赤十字は、2022年の5月に創設100周年を迎えます。大正11年（1922）5月に滋賀県守山小学校で結成されてから、この記念の年を迎えるにあたり、全国の加盟校で様々なイベントや活動を行う予定です。

投票で決定した100周年記念のロゴマークが入った、学校で掲げられるのぼり旗や、活動の際に身につけられる缶バッジといった資材も日赤県支部に続々と到着しています。ロゴマークの選考には、全国青少年赤十字指導者協議会理事として、当県指導者協議会稲田壮一会長も参加しました。

青少年赤十字が、ずっとつづけてきたこと



子どもたちの
主体性を育むために
「気づき」「考え」
「実行する」ことを
伝えつづけます



100周年特設ページへ

日赤本社ではホームページに特設ページを設け、イベント告知やSNS参加案内をお知らせしています。また、5月5日（木・祝）にWeb生配信で開催される「100周年オープニングイベント」

には、事前申込により誰でも参加いただけます。掲載のQRコードから案内や動画をご覧ください。



オープニングイベント参加申込(事前アンケート)へ

富山県支部では、100周年行事の参加校に対する助成を行います。自校で取り組みたいこと、他校と連携してやってみたいことなど、日赤富山県支部にご相談ください。

青少年赤十字に加盟している学校のメンバー一人ひとりが、身の回りの世界や環境、人々に目を向け、その存在に感謝し、優しさについて考える良い機会となることと思います。ぜひ、100周年記念の活

動に、学校、学年、クラス、部活、委員会など可能な形で参加してみてください。

変わらない青少年赤十字活動

昭和20年代から続く リーダーシップ・トレーニングセンター



滋賀県大津市藤等小学校で行った第1回トレーニング・センター（昭和25年）

琵琶湖での水泳の様子



トレーニング・センターのラジオ体操
長年にわたる指導により
「気づき・考え・実行する」が根付き
今でも学校現場の指針となっている

学校で献血セミナーを開催してみませんか？

日本赤十字社では、病気やけがなどで輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うため、16～69歳（※65歳以上の方の献血は、献血経験等の条件があります）までの健康な方に献血のご協力をお願いしています。

近年、若年層と言われる10～20代の献血者が減少しており、このまま減少し続けると近い将来、必要な輸血用血液の確保がより一層難しくなることが予想されています。

そこで、将来の献血を支える小学生～高校生に、献血がなぜ必要なのか、献血された血液がどのように使われているのかを理解してもらい、健康といのちの大切さを学ぶ取り組みとして、献血セミナーを実施しています。



献血バス

ぜひ、出前授業などとしてご利用してみてください。

実施時間や内容については、事前の打ち合わせで調整することができ

ます。また、希望された高等学校を対象に、献血バスを学校に配車して、学内献血も実施することができます。

詳しくは、富山県赤十字血液センターまでお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

富山県赤十字血液センター
献血推進課 電話076-451-5555

【セミナー内容の例】

- ・血液の成分やたらき、血液型について
- ・献血とはなにか？
- ・献血の現状
- ・なぜ献血が必要なのか？
- ・献血はどのようなときに使われているか？
- ・献血の歴史
- ・献血された血液は、どのように患者さんのところまで届けられているのか？
- ・なぜ献血が必要なのか？



献血セミナーの様子

令和4年度JRC活動計画

3月	1月	8月	7月	6月	5月
高校生対象 スタディー・センター（山梨県） 高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を図ります。	青少年赤十字活動研究会（富山市） 教職員を対象に、広く青少年赤十字活動を学び、普及することを目的とした研究会です。	リーダーシップ・トレーニング・センター 県下小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーが集まり、共同で生活する体験学習です。チャイムや指示がないため、自分で考えて行動することによって、参加者の自主性を育てます。	全国賛助奉仕団協議会（日赤本社）	全国指導者協議会総会（日赤本社） 第3ブロック指導者協議会長及び支部担当者研究会（愛知県）	指導者協議会 理事会・総会（日赤県支部） 令和4年度 活動実践校指定 青少年赤十字創設100周年オープニングイベント（日赤本社・Web）

青少年赤十字への加盟について

青少年赤十字は、学校教育の場に組織され、教師が指導者となって、児童・生徒とともに活動に取り組みます。

青少年赤十字に加盟されると、定期刊行物や資料・教材の無償提供、指導者対象の講習会に関する案内、小・中・高等学校の青少年赤十字メンバー対象のリーダーシップ・トレーニング・センターに関する案内等がありますが、「これをしなければならぬ」といった義務のようなものではありません。地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献するような活動を学校の裁量で自由に行うことができます。なお、加盟登録する上で、経費は一切かかりません。各学校の教育効果を高めるため、ぜひ青少年赤十字をご活用ください。

令和3年度新規加盟校

富山市立榎尾小学校 校長 酒井 克 樹 全校加盟	富山市立朝日小学校 校長 横 野 誉 子 全校加盟	富山市立浜黒崎小学校 校長 北 嘉 昭 全校加盟
富山市立中央小学校 校長 松 浦 悟 全校加盟	県立高岡工業高等学校 校長 篠 原 俊 一郎 学年加盟	県立南砺福野高等学校 校長 番 留 幸 雄 部活動加盟

発行・編集

富山県青少年赤十字
指導者協議会
日本赤十字社富山県支部

〒930-0821 富山市飯野26-1
TEL076-451-7878 FAX076-451-6872
<https://www.jrc.or.jp/chapter/toyama/>

青少年赤十字加盟校状況（令和4年3月31日現在）

校 種	校数	メンバー数
幼稚園・保育園	14園	1,312名
小 学 校	137校	27,119名
中 学 校	73校	24,539名
義務教育学校	3校	409名
高等 学 校	15校	2,012名
特別支援学校	5校	221名
計	247校	55,612名